

年間スケジュール

【地域課題探究(グループ)】

探究の基礎を修得し、  
地域課題の発見・解決に取り組む。

1年

- 前期…探究の3つの視点「問題発見・問題解決・データ分析」について学ぶ。問題発見プログラムでは、自分が好きなものについて探究的な視点で調べ、データなどを盛り込みながらスライドを作成・発表する。
- 後期…地域の課題解決に実践的に取り組む。  
例：佐世保の英語教育を活性化するため、子ども向けの英語遊びを考え、保育園で実践する。

【文理別課題研究(グループ)】

【個人研究(個人)】  
「地域×学びたい分野」で  
地域課題にアプローチする。

2年

- 前期…興味・関心のある分野や大学で学びたい学問領域の視点から地域課題にアプローチ。  
10月には1年生に向けて成果発表を行う。
- 後期…自分の興味・関心のあるテーマや大学で学びたいことについて、「問題発見・問題解決・データ分析」の視点を意識しつつ深めていく。

【個人探究(個人)】

自分の興味・関心、学びたいことを  
深掘りし、進路・キャリアへつなげる。

3年

- 前期…2年次後期からの個人探究をさらに深める。総合型選抜や学校推薦型選抜に出席する生徒は、探究のプロセスを振り返り、準備を進める。

2022年度からスタートした総合的な探究の時間。  
現場で試行錯誤が続くなか、  
実践のヒントとなる探究の事例をご紹介します。

School Data

1964年創立／普通科／生徒数  
707人(男子314人・女子393人)  
／進路状況(2023年3月卒業)大学  
175人、短大4人、専門学校23  
人、就職3人、そのほか19人

地域課題に縛られない  
課題設定で、生徒の進路・  
キャリアに重なる探究に  
佐世保西高校(長崎・県立)

ふるさと教育を軸に、  
地域課題探究が始動

2017年度から授業改善と地域課題  
探究に取り組んできた佐世保西高校。  
2020年度に同校に赴任した植島雄飛  
先生は、試行錯誤しながら探究のあり方  
を模索してきた。



総合的な探究の時間プロジェクトチームチーフ・キャリア支援部副主任の植島雄飛先生。

当初、地域課題探究は、探究をベースに  
学校教育を設計しようという当時の校内  
の意向と、長崎県が推進してきた郷土愛の  
醸成を掛け合わせ、「ふるさと教育」を軸と  
した取組としてスタート。教科の授業改善  
と両輪で進めていたが、進学校という背景  
もあり、「実態としては、教科と探究が結び  
ついていなかった。扱ったテーマも手法も、探  
究」として十分な域には達していなかった」  
と植島先生は当時を振り返る。この事態  
を打開するため、2018年度に「総合的  
な探究の時間プロジェクトチーム」が発足。  
各学年3〜4名の教員からなるメンバーを  
中心に、探究を推進することとなった。

2019年度からは、1年次〜2年次前  
期は「地域課題探究(ふるさと教育)」で探  
究の基礎や地域(佐世保)について学ぶ、2  
年次後期は「文理別課題研究」で地域の課  
題解決にグループで取り組む、3年次前期  
は「個人探究」で自分の興味・関心に応じて  
課題を設定し、深掘りする…というカリキ  
ュラムに基づき授業を展開。プロジェクトチ  
ームがまず見直したのが、基礎となる「探究

的視点・手法とは何か」という部分だった。  
「問題発見・問題解決・データ分析と探  
究の視点を3つに整理し、それぞれについ  
てプログラムを考案しました。問題発見プ  
ログラムでは、教員がファシリテーターにな  
って生徒にさまざまな問いを投げかけ、生  
徒に何が課題なのかを考えてもらいます。  
また、問題解決プログラムでは、同じ問題  
でも人や立場により視点が異なることを  
例を挙げながら伝えます。最も重視した  
のが、データ分析プログラムです。理科の  
教員と連携し、実際に実験をしてデータ  
を集計・分析するというプロセスを生徒に  
体感してもらいました」

探究の真の成果を追求し、  
カリキュラムを見直す

2020年度からは三菱みらい育成財  
団の助成金を受け、外部機関との連携を  
進めていった。

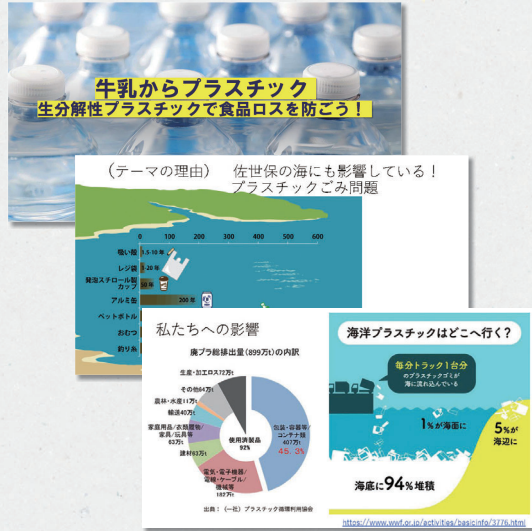
「2年次後期の文理別課題研究では、コ  
ロナ禍のなかでしたが、長崎国際大学、長  
崎大学、九十九島水族館海きららなどの  
地域の外部機関の協力を得ながら学び  
を深めていきました。成果物として理系  
は論文集にまとめたほか、文系は地域の人  
へのインタビューを『SASEBO仕事図鑑』  
としてまとめたり、クラウドファンディング  
で海きららにまつわる絵本を出版したり、  
地元企業と共同で商品開発を行ったりと、  
グループごとに工夫が見られました」

校内で探究が盛り上がる一つの契機とな  
ったのが、2021年度の3年生の個人探  
究の質の高さだった。当時の3年生で現在

● 先生によるオリエンテーション資料



● 生徒によるプレゼンテーション資料



●資料左：植島先生が作成した、1年生向けの総合的な探究の時間のオリエンテーション用資料。「探究とは何か」や手法について、例を交えてわかりやすく解説されている。  
●資料右：今年の2年生の文理別課題研究のプレゼンテーション用資料(作成中)。「環境問題(海洋プラスチック問題)×佐世保」について、データを交えながらまとめている。

は九州大学理学部2年生の山内涼乃さんは、「記憶の忘却」について探究。主体的に学びを深め、総合型選抜で大学に進学した。「山内さんのように、個人探究と大学で学びたい学問とがリンクする生徒が複数出てきて、下の学年のロールモデルになってくれました。その後は、探究系のコンテストへの応募・入賞者が出るなど、目に見えるかたちで、成果がaggあがっていきましした」

しかし、すぐに壁に直面した。文理別課題研究が進路につながっていない。個人探究に熱心に取り組んで進路につながる生徒がいる反面、時間がなく取組が深化しない生徒も一定数いる。コンテストへの応募を推奨するあまり、コンテストでは賞が取れても希望の進路に結びつかないケースが出てきている…。そんな状況に加えて、助成金が終了することも追い打ちをかけた。「高校における探究の、成果、つてなんだろうと改めて考えたときに、何より大事なものは、その取組が生徒の進路やキャリアに寄り添うものになったかどうか、だと思っただけです。探究を、生徒たちが本当にやりたいことを深められる機会にすべき。だったら、肝は個人探究だよなと。そう考え、思い切つてカリキュラムを見直すことにしました」

**生徒の興味・関心、学びたい学問領域を軸に据えた探究へ**

こうして、2022年度の1年生から、新しいカリキュラムを始動した。1年半かけていた地域課題探究は1年間に凝縮。授業の進め方も、教員主導のスタイルから、生徒が自分の好きなものについて探究・発

表するという生徒主体に改めた。さらに、2年次前期から文理別課題研究をスタート。その内容や進め方を大きく変えた。「従来の文理別課題研究は、地域×理系、地域×文系というざっくりしたグループで、生徒の興味・関心や進路・キャリアとの関連性が希薄でした。それを改め、自分が興味のある分野や学問領域の視点から地域の課題にアプローチをする、というスタンスに切り替えました。例えば文系なら、経済・行政、地方創生など分野ごとに興味・関心の近い生徒同士でグループを組み、地域が抱える課題を洗い出し、解決策を模索します。学びたいことが明確な生徒は意欲的に取り組めますし、まだ学部・学科を絞り込めていない生徒にとっては進路を考えるきっかけになるでしょう。大事なのは、とにかく1回探究のサイクルを回してみることに。そこで見えてくることがあるはずです。3年生になって行きたい学部・学科が決まっていらない…という事態を避

けるためにも有効だと期待しています」

新カリキュラムで学ぶ1期生は、現在2年生。佐世保市内を走る松浦鉄道の混雑状況を「ZTMで配信する」という地域創生グループのプロジェクトなど、「地域×学びたい分野」の探究が進んでいる。前期が終わる10月には、グループごとに1年生に向けて成果発表を行う予定だ。そして、発表終了後は個人探究がスタート。3年次前期まで時間をかけて深めていく計画だ。

「地域課題をテーマにした探究に取り組む意義はよく理解できますし、否定する気はまったくありません。一方、それが生徒の進路やキャリアと重ならず、別物になってしまつたのであれば、本来の探究の目的からズレてしまつたのではないかと思います。地域課題探究を起点に、地域×学びたい分野、自分の興味・関心や学びたいこと…とステップを踏むことで、進路・キャリアに重なり連なっていく。そんな探究を目指し、これからも試行錯誤を続けていきたいと思います」

大学の先生に自らアプローチし、興味のある研究分野を探究



九州大学  
理学部生物学科2年  
山内涼乃さん

私は遺伝子などに興味があり、九州大学理学部生物学科で学びたいと思っていました。同学科に「記憶の忘却」についての研究室があることを知って興味をもち、個人探究のテーマに選択しました。忘却の仕組みは解明されておらず、調べるうちに次から次へと疑問が湧いてきて…。研究室の先生に自分から連絡し、メールでやり取りをしたり、実際に研究室を見学させてもらったりしました。そして、個人探究に取り組むなかで、大学でもっと詳しく学びたいと思うようになり、総合型選抜で入学しました。個人探究は大学のゼミのような感じで、生物の先生であり担任でもあった植島先生の下、自分の興味・関心事を突き詰める面白さを肌で感じることができました。

## まとめ

### 佐世保西高校の探究のモットー

探究は、生徒の進路・キャリアに寄り添ったものであるべし。  
地域課題探究で終わらない、生徒の未来につながる探究へ。

#進路・キャリア #自分の興味・関心 #地域課題の先

#### 自分の興味・関心や大学で 学びたい分野を起点にする

文理別課題研究では、興味・関心や大学で学びたい分野に近い生徒たちが集まり、その視点から地域を見直し、課題を洗い出す。個人探究では、「地域」という枠は外し、自分自身の「なぜ?」「知りたい!」を起点に問いを設定する。

#### 調査方法はさまざま。 生徒の意思を尊重する

以前は「生徒を外に出す」ことを重視し、外部連携に重きを置いていたが、現在は生徒たちの意思を尊重するスタンスに。文献調査、街頭アンケート、フィールドワーク、施設訪問などさまざまな方法で情報収集にあたっている。

### 課題の 設定

### 情報の 収集

### まとめ・ 表現

### 整理・ 分析

#### 取組や振り返りを記録し、 進路実現につなげる

文理別課題研究の成果は下級生に向けて発表する。3年間を通して、各自が探究の取組をまとめたものをデジタルデータとして保管。節目ごとに振り返りを行い、自己評価や気づき・感想を記録に残している。

#### データの分析を重視し、 調べ学習で終わらせない

探究の3つの視点(問題発見・問題解決・データ分析)で最重要視するのが「データ分析」。1年次に学んだデータの分析法や科学的な見方を応用し、自分が収集した素材(情報)を読み解き、論点の根拠にアレンジしていく。

#### 探究設計のPOINT

- POINT ① 「ふるさと教育」の視点で  
地域を知り、課題を見つけ出す
- POINT ② 自分が興味・関心のある視点から、  
地域課題にアプローチする
- POINT ③ 卒業後の進路・キャリアと重ねつつ、  
興味・関心事を深く掘り下げる

#### 評価基準

##### 3年生の評価基準の一例

達成度	評価の基準
5	自身の志望理由書完成に向けて、文献・インターネット/インタビュー(キャリアミーティング含)・体験活動等の調査を通して、複数の人・モノ(2人or2つ以上)と関わった。
4	自身の志望理由書完成に向けて、インタビュー(キャリアミーティング含)・体験活動等の調査を1件のみ行った。
3	自身の志望理由書完成に向けて、文献・インターネット/インタビュー(キャリアミーティング含)・体験活動等の調査を通して、複数の人・モノ(2人or2つ以上)と関わろうとしたが、計画のみに終わった。
2	自身の志望理由書完成に向けて、文献・インターネット調査はしたが、他者の視点を取り入れようとはしなかった。
1	自身の志望理由書完成に向けて、文献・インターネット等の調査をしようとはしなかった。